「キリストのうちにある知恵と知識との宝」

コロサイ２：３～５

堀田修一　２５・８・２４

Ⅰ「このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されている（原語：アポクリュフォス）のです」：３。

１．背景：当時の異端は、救いには、より高度で複雑な知恵、知識が不可欠であると信じていた。そしてその知恵、知識は、一般の無学な庶民には隠され、閉ざされていた。彼らはそれをアポクリュフォス（隠されているの意）と呼んでいた。それは、普通の人を閉め出し、妨害する特殊知識だった。

２．しかし、真の知恵と知識は、異端の特殊知識にあるのではなく、神の奥義であるキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのですと明確に語られる。それゆえに、特殊知識を求めて異端、間違った教えに走るのではなく、真理であられるキリストを信じ、キリストのうちにとどまり交わる時、神であるキリストは、私たちに、真の知恵（知識をどう使うか判断する識別力。行くべき道を常に示される）と知識（神を、自分、物事の意味を正しく深く知り続ける真の知識）を与え続けてくださる。「いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである」（ヨハネ１：１８）「わたしが道（真の神を知り近づける道）であり、真理（真の神を知る真理、真の知恵と知識）であり、いのちなのです」（１４：６）。また主は、神のことばである聖書を通して真の知恵と知識を私たちに与えられる。「聖書はあなたに知恵を与えてキリスト･イエスに対する信仰による救いを受けさせることができるのです」（Ⅱテモ３：１５）。それゆえに、私たちは、毎朝、また、「主のおしえ（みことば）を喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ（思い巡らす）」（詩篇１：２）者でありたい。

Ⅱ「私がこう言うのは、まことしやかな議論によって、だれもあなたがたを惑わすことのないようにするためです」：４。

１．「まことしやかな議論（上手に論拠をそろえて良いものにしてしまうほどの説得力を持ったことば、会議を牛耳って誤った方向に向けてしまうほどの影響力の意）に注意すべき。間違った教えも、まことしやかに見える。それらを用いる悪魔も巧妙。

２．正しい対処。

①「御霊の与える剣である、神のことばを受け取りなさい」（エペ６：１７）。

②「人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り」（４：１４，１５）。

③間違った教えをする人への接し方→「あなたがたのところに来る人で、この教え（キリストの正しい教え）を持って来ない者（教会を離れ出て行き、偽りの教えを持って来る者）は、家に受け入れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。そういう人にあいさつすれば、その悪い行いをともにする（つながり悪影響を受け悪を協同する）ことになり

ます」（Ⅱヨハネ：１０，１１）。
④正しい教え、聖書、主のみことば、主御自身を深く知り続ける。「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます」(ヘブル４:12)。本物を深く知る知恵、知識は、偽りを判別する。

Ⅲ「私は肉体においては離れていても、霊においてはあなたがたともにいて（遠くから、教会のことを気遣い、彼らと共に悲しみ共に喜ぼうとしている姿勢)、あなたがたの秩序と、キリストに対する堅い信仰とを見て喜んでいます」：５。
１.「あなたがたの秩序（秩序正しさ)」＝あなたがた教会の御霊の一致を保つための秩序。教会の秩序を守るものは→
①聖書のみことばの理解の一致。「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し」（エペ４：１３)。教会が正しい教理を学び、知っていることは大切。
②主の愛で互いに愛し合う愛。「互いに悪口を言い合ってはいけません」（ヤコ４：１１)。本人に祈りつつ愛をもって正直に語る時、徳が高められ、他人への悪口から守られる。当人に言う聖なる愛と勇気を祈り求めたい。当人ではなく、他人に人の悪口を言うなら、分裂分派が生まれる。
③主の教会の秩序を壊す罪(間違った教えを伝え教会を壊す罪、悪口を言い教会の一致を壊す罪、分派を起こす罪、偶像礼拝・不品行の罪を続け悔い改めない罪）を犯す人への聖書的な正しい対処の実行。
ⅰ「兄弟（クリスチャン）と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしる（悪口を言う、侮辱する）者、酒に酔う者、略奪する者（これらの罪を認めず反省せず、いっこうに神に悔改めないで続ける者）がいたなら、いっしょに食事をしてもいけない、ということです…その悪い人をあなたがたの中から除きなさい」（Ⅰコリ５：１１、１３)。まず私たち自身が悔改めて、自分の心からこれらの罪を除くことができますように。
ⅱ「分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい」（テト３：１０)。それにより、その人が反省し神に立ち返るのを神は望まれる。まず私たち自身が気をつけたい。間違った教えやある人を悪く言うことにより分派を作る罪を犯すことがないように。分派を防ぐ基本＝①片方からではなく、両方の言い分を公平に聞く。箴言１８：１７。ヨハネ７：５１。公平な証人が必要。事の真実を祈りつつ判断する。②主につかず、悪口や人や自分につける分派は主の教会を壊す。主を中心とした交わりは、主の教会の秩序を保ち教会を建て上げる。

２.「キリストに対する堅い（確乎たる、しっかりした）信仰」。あやまちに導く異端がある中で、コロサイの聖徒たちは、秩序とキリストに対する堅い信仰を持っていた。それを見てパウロは喜んだ。今も、霊的な戦いがある中で、教会、兄弟姉妹たちが、秩序と主への堅い信仰を持っているのを見るのは私自身も喜びであり励ましです。主は生きて守り導いてくださる。キリストに対する堅い信仰（主への信頼）を保ち養うもの→
①主への信仰の土台である主のみことば。「どんなときにも、神に信頼せよ」詩６２：８
②秩序と主への堅い信仰を与えてくださる平和の神を共にあがめ、礼拝する。「神が混乱(無秩序）の神ではなく、平和（聖なる秩序）の神だからです」Ⅰコリント１４：３３。
③私たちは、一人では弱い。自分ひとりの力で教会の秩序と主への堅い信仰を保つことはできない。互いに自分の弱さを認め合い分かち合い励まし合い祈り合う。「互いに励まし合い、互いに

徳を高め合いなさい」Ⅰテサロニケ５：１１「互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい」ヤコブ５：１６。

④一人ではなく祈り支えていただく恵みの証し：大雨災害のある中、主の守りで九州地区のキャンプの集会が始まった。私に依頼されたのは４回のメッセージ。もっと聞きたいとの希望で実際は５回となった。音源と原稿の恵み。自由時間に地区運営員会が開かれ、ある教会の相談で全国運営委員の私の助言が求められる。それも守られる。金曜日の昼食で終わり、ホテルに着く。出会い。夜からのどの痛み。土曜日、約束していた原口先生との午前１０時から１１時半まで寄り添いと真実な交わり。その午後、救急外来へ。３９．２度の熱。コロナと思われたが検査はできないとのこと。お薬だけいただく。３９度の熱は厳しい痛み。鹿本の礼拝前に畳の部屋で休み、礼拝説教原稿を一人の兄弟に読んでいただく。その後、原口師のお気持ちを伝える。その夜、自宅に到着。月曜日に病院で正式な検査。コロナの薬を頂く。木曜日から当教会で説教の準備。本日の礼拝説教。主と皆様と連合の愛と祈りで支えられています！